

令和5年度  
学校関係者評価報告書

学校法人 石井学園  
岐阜調理専門学校

学校関係者評価会議

## 1 日時

コロナウイルス等感染症への対策のため、文書での依頼・回収とした。

## 2 場所

集約場所：学校法人石井学園 岐阜調理専門学校

## 3 評価委員

委員名	所属	役職	備考
梶川道夫	有限会社大阪屋	代表取締役	回収
大脇房夫	岐阜県調理師連合会	会長	回収
野呂看一	味彩やちぐさ	店長	回収
平井良樹	株式会社ひら井	社長	回収
上山広	日本中国料理協会 岐阜県支部	支部長	回収

## 4 開催内容

- (1) 学校の状況及び自己評価の送付
- (2) 委員からの意見回収
- (3) 意見のまとめ

## 5 評価会議に基づく学校評価

評価基準
適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目	評価となる観点	評価値
0 本年度定めた重点的に取り組む事項について	・社会人としての基本的な生活習慣の確立 ・技術検定の充実と指導の徹底 ・資格指導の充実 ・学生募集	4
1 教育理念・目標に関して	・学校の理念・目的・育成人材像が明確で、社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想が抱かれているか。また、そのことが学生・保護者等に周知されているか。	4

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育目標、育成人材像等が業界のニーズに向けて方向づけられているか。</li> </ul>	
2 学校運営に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方針が策定され、それに沿った事業計画がなされているか。</li> <li>・人事、給与規定が整備され、業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか。</li> <li>・教育活動に関する情報公開が適切にされており、情報化による業務の効率化が図られているか。</li> </ul>	4
3 教育活動に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念に沿った、教育課程の編成がなされ、業界のニーズを踏まえた教育レベルや学習時間の確保はされているか。</li> <li>・実践的な職業活動の視点に立った教育方法の工夫や、業界の関係団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直しがされているか。</li> <li>・教育目標を達成するための教員確保がなされ、能力開発のための研修等が行われているか。</li> </ul>	4
4 学修成果に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上、資格取得の向上、退学率の低減が図られているか。</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価をしているか。</li> </ul>	4
5 学生支援に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職に関する支援体制、学生相談に関する体制、学生の経済的な支援体制等が配慮されているか。</li> <li>・学生の生活環境への支援が行われ、保護者との連携は適切に行われているか。</li> <li>・社会のニーズを踏まえた教育環境の整備がされているか。</li> <li>・高校・専修学校との連携によるキャリア教育の取組が行われているか。</li> </ul>	4
6 教育環境に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動に関する施設・設備が十分であり、海外研修等についても十分な育体制がなされているか。</li> <li>・防災や衛生管理に対する体制や整備がなされているか。</li> </ul>	4
7 学生の受け入れ募集に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は適正に行われ、学納金は妥当なものか。</li> </ul>	4

8 財務に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の財政基盤が安定しており、予算・収支計画は妥当であるか。</li> <li>・会計監査が適切になされ、財務情報公開の体制整備はできているか。</li> </ul>	4
9 法令等の遵守に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。</li> <li>・個人情報 that 適正に保護されているか。</li> <li>・自己評価を実施し問題の解決をするとともに、自己評価結果を公開しているか。</li> </ul>	4
10 社会貢献・地域貢献に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用して社会貢献や地域貢献を行っているか。</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援し、地域に関する公開講座等を積極的に実施しているか。</li> </ul>	4

## 6 評価委員からの意見

### ○本年度定めた重点的に取り組む事項について

- ・校内ですれ違う学生全てが大変気持ちの良い挨拶をする。
- ・学校全体として、将来料理人になりたいという意欲を感じる。
- ・学生募集の一環として調理部長の講義、実習はとても意義があると思う。
- ・少子化対策を考えて生徒募集を凶ることが必要である。
- ・生徒数の確保のため、保護者とのコミュニケーションの充実が必要である。

### ○教育理念・目標に関して

- ・学生、保護者に周知されている。
- ・学校に対する期待が大きい中、先生方は生徒の周知のためによく頑張っている。

### ○学校運営に関して

- ・「働き方改革」に向け様々な工夫もされ、運営されていると思う。
- ・教職員に対しても、「働き方改革」を鑑み、適正に対応されていると思う。

### ○教育活動に関して

- ・学生は飲食業界という独特な社会に入る不安は大きいかと思うが、現場の料理人から直接話を聴ける機会があり、そこで得られるアドバイスは多きものだと考える。
- ・早期退職が増加している中、社会に出てからの基本的なルール、社会性の育成などが大事だと考える。

○学修成果に関して

- ・資格取得に関しては、それなりの成果が出ている。
- ・卒業生の就業状況の把握し、現場で活躍している姿をどんどんと発信すると良い。をさらに行われるとよいと思われる。

○学生支援に関して

- ・悩みの相談などは、常に受け入れやすくできている。
- ・卒業生も気軽に相談できる学校であってほしい。

○教育環境に関して

- ・十分な設備があり、しっかりと整備されており大変良い。

○学生の受け入れ募集に関して

- ・子どもの数が減っていく中、学生の確保はますます大変になっていくが、情勢を見越した生徒募集方法の確立が望まれる。
- ・「体験入学」はとてもいい方法であるし、「出前講座」も効果的である。

○財務に関して

- ・適正であり、安定していることは学生の安心にもつながる。

○法令等の順守に関して

- ・適正である。

○社会貢献・地域貢献に関して

- ・社会貢献は大事である。学生の意識の中にボランティア活動の必要性、たくさんの人に支えられていることを教えてほしい。
- ・学生みずからが取り組み、参加できるように支援していくことが望ましい。
- ・学生にとって社会貢献は重要と思われる。コロナがあけた今後に取り組めるカリキュラムを考えてほしい。

## 7 まとめ

○各項目とも、概ね「4：適切」という評価で、全体的には自己評価と同等、もしくは上回っている。

○多くのご指摘やご提案をもとに、来年度以降、次のように継続・対処したい。

- ・挨拶は標語を「挨拶ファースト（ぺこり、にっこり、ほっこり）」とし、粘り強く声掛けをしながら、本校の伝統として定着していくことをめざす。

- ・高校3年間でコロナ禍で過ごした生徒が多く入学してくることを十分に考慮し、生徒とのコミュニケーションを更に強化していきたい。
- ・非常勤の先生方とは、コミュニケーションを図る時間がとりにくいですが、個人情報以外のことは、LINE やメールを有効に活用しており、今後も継続し緊密化に努めたい。
- ・現場での体験を含めたボランティア活動については、学校管理下において、授業内に組み込みインターンシップ等で実施ができると大変有効であると考えているが、養成施設としての位修得のための標準時間数を削るわけにはいかない。その代替措置として、なるべく調理系のアルバイトを奨励しており、卒業生が就職した企業、店舗などをアルバイト先として勧めている。
- ・独立、開業の方策については、3年前から岐阜県信用証協会から講師を招き、開業するまでの必要資金や立地条件の選定、人流等のマーケティングを学んでいるが、今後も開催し生徒の夢の実現につなげたい。
- ・年度当初や「募集要項」完成後に、校長、副校長が高等学校を直接訪問し、校長や進路担当者と懇談を行っており、県内公立高校 60 校、私立高校 31 校に対し、60%以上の高校に及ぶ。これは、単に生徒募集の目的のみならず、本校の教育理念の周知、その高校の卒業生の進路先などを提示することで、「各高校との繋がり」をさらに強固なものとするを目的としている。
- ・本校入学生徒の出身高校へ出向き、現在の本校で学ぶ姿を「張っています 卒業生！」のタイトルで、メッセージ入りの写真付きポスターを作成し、配布、校舎内掲示を依頼している。
- ・専門学校（養成施設）という特性上、地域貢献についてはその内容、時期等については限定的なものにならざるを得ない側面があるが、有為な人材の輩出こそが最大の地域貢献であると考えている。